

「西淡路希望の家」は、地域での障がい者の居場所を作ろうと親御さんたちが中心となって 1985 年に設立されました。現在は知的障がい者の通所授産施設として 67 人の利用者さんが軽作業、手織り、企業内授産、清掃、オリジナル商品の製造・販売に取り組んでおられます。

オリジナル雑貨を生み出す“ボーナス活動”

「施設の職員にもボーナスがあるのだから利用者さんにもボーナスを」という発想ではじめられたのがボーナス活動です。日々の取り組みとは別に季節的な取り組みとして定着しています。カレンダーやTシャツづくり、粘土作品など様々なオリジナル雑貨がこの活動から生み出されており、工賃アップに一役買っています。実は先日の Challenged Creative Award2010 で最優秀賞を受賞された“プラバンバッチ”もそのひとつです。利用者さんが描いた絵にはたくさんおもしろいものがあり、それらを何とか世に出していくことができないかという思いが商品づくりの発端だったそうです。プラバンバッチは、たいへんな人気商品だということで『ボーナス活動を日々の活動にするということはないのですか』とお尋ねしたのですが、現在その予定はないそうです。雑貨は実用性のあるものばかりではありませんし、個人の好みの問題など顧客を獲得することは必ずしも容易なことではありません。

商品づくりの姿勢

そこで、どこにも売っていないものをつくろう! というのを基本に商品づくりの情報やアイデアは積極的に集めておられます。時には販売場所や購買層によって商品のラインアップやブランドを選別されていたりと販売方法についても様々な工夫をされています。商品の魅力で勝負したいので福祉施設でつくられたという背景を、あえて出さない時もあります。独創性のある雑貨類はどちらかというと若い人の志向にあうものが多いので、今後は大阪市内で若者が集まるところに商品を出したいという夢を持っておられます。

ひとつひとつが手づくりであるために、商品を気にしてくれた方から大量に発注を依頼されることもあるそうですが、そういった依頼には応えきれないという悩みもあります。それでも魅力的な商品は、それを心待ちにされている人たちの手にひとつひとつ渡っています。

社会福祉法人ノーマライゼーション協会
西淡路希望の家
〒533-0031 大阪市東淀川区西淡路 1-13-28
TEL 06-6323-4991 FAX 06-6323-4973



3月9日(水) 工賃倍増ミーティングの会場で、チャレンジド クリエイティブ アワード 2010 の授賞式を開催しました。雑貨・食品部門、それぞれに予選を勝ち抜き本審査に残った 24 作品の中から、厳正な審査のもと各部門ごとに最優秀賞、優秀賞、審査員特別賞が決定しました。

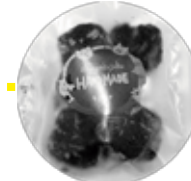
雑貨部門

- 最優秀賞 プラバンバッチ (西淡路希望の家)
- 優秀賞 SAORI de Bag (SAORI hands)
- 優秀賞 ろう花 (かすみ荘)
- 優秀賞 ハートケーキ キャンドル (とくふうホーム)
- 審査員特別賞 手漉き和紙のブックカバー (くらしといきがいにじ)
- 審査員特別賞 テディベア (シルフ)



食品部門

- 最優秀賞 チョコアーモンドクッキー (心学塾作業所)
- 優秀賞 さくさくクッキー (PicaPica 作業所)
- 優秀賞 ゴマクッキー (共働作業所 風)
- 優秀賞 チュイール・オ・アマンド (サニー・サイト)
- 審査員特別賞 アーモンドクッキー (よさみ野障害者作業所)
- 審査員特別賞 スノーボール (ほくぶ障害者作業所)



本年度は副賞として、最優秀賞には金、優秀賞には銀の受賞シールを贈呈。受賞した商品に貼っていただき、売上アップをめざします! ⇒詳しくは裏面に。

■ 全体ミーティング

工賃倍増プロジェクトのスーパーバイザーから 2011 年度の方針について報告をしました。事業の流れは、各施設から提出いただいた工賃引上げ計画シートに基づいて、ファシリテーターが経営ノウハウ支援、技術力向上支援、受発注コーディネート支援につないでいきます。施設の希望に応じて、経営コンサルタント、技術指導者の体制を強化し、それぞれ派遣回数を増やし 50 施設に継続的に派遣する予定です。また、販路開拓については営業部隊を増員し、企業の新規開拓を進めより多くの受注につなげていきます。工賃倍増計画も最終年度を迎え、一層のパワーアップを図ってまいります!!

■ 受発注コーディネート事例発表会

2010 年度の特徴は、企業様とのリピート取り引きが増えたことと共同受注(共同販売、共同製作、共同受注)の取り組みが大きく広がったことです。オフィス街での共同販売にご尽力いただいた富士ゼロックス大阪(株)の石黒様から『『ミディ・マルシェ』はフランス語でお屋の市場、という意味です。パンやクッキー、雑貨もいっぱいあって、周辺の企業の人たちがたくさん集まる風物詩になってきました。また、大阪商工信用金庫の林様からは、「障がいのある人の感性豊かな作品のファンになり、それをオリジナルの粗品にアレンジしてお客様にお渡しするとたいへん喜ばれました」と、うれしい報告をいただきました。⇒ミディ・マルシェ出店募集は裏面に。

■ 経営ノウハウ支援モデル事例発表会

経営コンサルタントを派遣した施設のうち、モデル事業を実施した 2 施設から報告していただきました。

社会福祉法人ゆう (JD:ファクトリー、なないろほーむ) は、施設長、職員、利用者さんが一丸となって改善を進めています。請負作業について、注文増が期待される冷蔵庫部品に着目し



作業手順表や多能工表の作成に取り組んでいること、また、地域交流の窓口としてオープンしたりサイクルショップについて商品の陳列や接客マナーの向上に取り組んでいる報告がありました。

一方、能勢町の「夢来人の家」(むらびとのいえ)では、利用者さんのニーズが日中活動から働く場(=自己実現)に変わってきたことを背景に、熱心に喫茶店の売上向上に取り組んでおられます。店の周辺への広報宣伝や来店客調査に基づくモーニングメニュー、昼食メニューの追加や接客マナー講習会等を行っているとの報告がありました。



工賃倍増ミーティング開催 2011・3・9

Challenged Creative Award 2010
~第7回 授産製品コンペティション~
授賞式

ミーティングのオープニングは、「チャレンジド クリエイティブ アワード 2010」の授賞式。ユニークで個性的な商品計 12 作品が栄えある表彰を受けました。本当におめでとうございます。食品部門の選任審査員・大手前製菓学院松井博司先生からは、「応募されたクッキーは平均して非常に優れていました」、「製菓技術はどんどん変わっていくので研鑽をお願いしたい」との激励を頂戴しました。また、審査委員長の産経新聞厚生文化事業団大船一美専務理事からは、「一般の流通で通用するかどうかは一般の人たちが買いたくなるかどうかのポイント。応募作品には非常に個性的ですばらしいものが集まりました」とうれしい講評を得ました。

アネックスパル法門坂のホールにて開催。47 施設、69 名が参加されました。

